

車いすが変えり、子どもたちの世界。

車輪

WAFCA's Sharing Magazine

20周年
記念誌



認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター (ワフカ)
WHEELCHAIRS AND FRIENDSHIP CENTER OF ASIA (WAFCA)

障がいのある子が 生まれたのは 前世の行いが悪いから なのか？

タイ東北地方の貧しい農村で暮らす8歳のある男の子は、未熟児として生まれてきました。

生まれつき身体に障がいがあり、歩くことができません。お父さんは生まれた赤ちゃんに障がいがあることが分かったと、家族を捨ててどこかへ行ってしまいました。さらにお母さんは親戚や近所の人たちから「おまえの前世の行いが悪いから障がいのある子が生まれたのだ。」と責められ、人目を避けるように村の集落から少し離れたところに小屋を建ててひっそり暮らしていました。

私たちが車いす支援事業の調査で初めてその男の子の家を訪れたとき、「車いすは使いたくない、ここに障がい者が住んでいることを知られたくないから。」とお母さんは遠慮がちに言いました。仕事もできず食べるものに困るほどの貧しさと、目に見えない周囲からの偏見と闘いながら、お母さんは懸命に障がいのある息子を育ててきました。学校も病院も行きたくても行けない。ほとんど外出もせず、家の中に留まっていたいました。

どこに相談すればいいのかもわからない、先の見えない不安な状況。それでも助けてほしいとは言えない、その理由は……。



このままでは お母さんまで倒れてしまう。 でも、車いすを おくる団体の私たちに 何ができるのだろう。

私たちは、まず、地域の特殊教育センターの職員と協力し、村長や役場の福祉担当者に現状を訴え、社会福祉事務所で障がい者身分登録をしました。これで月々約2,500円の政府の補助金がもらえるようになりました。また、お母さんと一緒に村の学校へ行き、車いすで学校に通えたら授業を受けられるよう校長先生にお願いしました。

次第に行政、学校、村の人たちが協力してくれるようになり、みんなは「もっと早く実情を知っていたら手助けできたのに」と口々に言いました。前世の悪行のせいだと自分を責めていたお母さんは、誰かに助けを求めてはいけないと思っていたのです。初めて助けを求めてみて、思っていたほど周りには偏見を持っていなかったことに気づき、徐々に心を開いていきました。そして小学校に入学し、お母さんに車いすを押してもらって通学できるようになった男の子の世界は、未来に向かって少しずつ変わっていきました。

彼のような子どもは、まだまだ沢山います。

そんな子どもたちに、いつでも寄り添える存在であることを大切に、WAFCAはこれまでもこれからも「車いすをおくる」活動をしていきます。



WAFCA contents

- 20周年を迎えるにあたって 05-06
- WAFCA 20年のあゆみ 07-12
- データで見るWAFCA 20年の実績 13-14
- WAFCAグループ 2030年ビジョン 15-18
- WAFCAの子どもたちのストーリー 19-22
- WAFCAへの応援メッセージ 23-24

「障がい児とともに」ある社会を目指して



WAFCAが20年間で著しい成果を上げられた背景には、WAFCA、WAFCAタイランド、WAFCAインドネシアの役員の方々の優れた見識と指導力、設立時より物心両面から支援いただいたデンソーグループの皆さまの存在を忘れることはできません。支援者、会員の皆さまはじめ、すべての方々に深甚なる謝意を申し上げます。

WAFCAの活動は、同じ1999年に設立されたWAFCAタイランドとの協働関係を築きながら、推進してきました。現在ではWAFCAタイランドで培った活動スキームを、インドネシアにも拡げ、障がい児一人ひとりの障がいの状態やニーズに合った車いすと教育支援など自立につながる環境づくりに取り組んでいます。中国・雲南省では、車いすと教育奨学金の提供と交流活動を進めています。

今後、WAFCAは2030年を見据え、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に障がい者支援の側面から貢献すべく、障がい児一人ひとりの能力やニーズに応じたインクルーシブ教育の実現に努めると共に障がい児、専門家、学生等との交流を通して学び合い、教育の向上、指導者の育成、相互理解の推進を図っていきます。

そして、すべての人々が、「障がい児のために」ではなく「障がい児とともに」ある社会を目指していきます。

今後ともWAFCAへの一層のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

WAFCA理事長 榎田 勝利

WAFCA20周年に寄せて



WAFCA設立20周年おめでとうございます。

20年前、「アジアの障がい児の、“学校で勉強したい”という思いを叶えたい」、「障がい児が持つ可能性を社会に広めていきたい」、との思いから、「企業が設立する日本初のNPO」という試みに取り組まれ、ここまで育てて下さった関係者の皆様のご尽力に感謝を申し上げます。

タイでの車いすの寄付からスタートした活動は、障がい児の移動の可能性を広げ、就学という夢を叶えるために、学校や自宅のバリアフリー化の推進といった環境整備や、障がい児一人ひとりの身体に合った車いすや補助具の提供、更には奨学金のご提供など、より個人に寄り添った活動に、着実に進化して頂いています。そして、今ではインドネシア、中国にも、その輪が広がり始めています。これらは、実際の現場で、障がい児一人ひとりや、ご家族と向き合い、悩み事や、困り事を共に考えてこられた賜物だと思います。改めて深く敬意を表します。

デンソーとしても、こうした活動の輪を更に広げ、SDGs(持続可能な開発目標)が志す「誰もが均等な機会を持つ社会」を実現すべく、微力ながら支援して参ります。

障がい児一人ひとりの夢が叶い、笑顔が溢れる社会の実現を目指し、2,700名の会員の皆様が、思いを込め、心を一つにして、取り組んでいって頂きたいと思っております。

株式会社デンソー 取締役社長 有馬 浩二

1999 ■日本 ■タイ

WAFCA・WAFCAT設立

自動車部品メーカー(株)デンソーの創立50周年記念の社会貢献事業の一環として設立され、同年12月にNPO法人として発足。「車いすを通じて、アジアの国々のバリアフリー社会実現に寄与すること」を目的に、デンソーが初めて海外に生産拠点を設けたタイで活動をスタートした。同年、現地事務所「WAFCAT」を設立した。



1999

2000

2001

2002

2003

2004

2005

2001 — ■タイ
2007 — ■中国
2015 — ■インドネシア

フレンドシップツアー開始

活動の状況や障がい者の現状を現地で直接肌で感じてもらう目的で会員向けのツアーを開始。現在も各国で継続して実施され、現場の生の声を聞いてWAFCAの活動意義や成果を直接会員と共有できる貴重な機会となっている。



2003 ■タイ

アフガニスタンへ車いす支援プロジェクト



「民際センター」と協働してThai Wheel製の車いす100台を海路と陸路でアフガニスタンの障がい者へ届け、アフガニスタンの復興支援に貢献した。

2000-2009 ■タイ

車いす工場「Thai Wheel」完成 生産支援開始

WAFCAの車いす普及活動の拠点となる車いす工場が完成。デンソータイランドの技術者の指導のもと、車いすや義足の人たち自らによって本格的な車いす生産が開始された。



2000/2003 ■タイ

障がい児教育支援事業開始

障がいのある子どもが就学できる環境を整えるため、障がい者用トイレの改修、エレベータを設置するなどの教育支援への第一歩を踏み出した。2003年には「日本民際交流センター(現・民際センター)」と協働で障がい児教育支援事業を開始。就学の機会を増やすきっかけとなった。



2002-2004 ■タイ

車いす生産・修理 トレーニングプログラム開始

タイ及びアジア諸国から車いす技術者を招きThai Wheelで車いすの製造と修理に関する技術研修会を実施。参加者の母国の技術向上とWAFCA活動のためのネットワーク構築を目的とした。



2005 ■日本

車いすバスケットボール アジア交流大会

愛・地球博会場のEXPOドームで中国、韓国、タイ、フィリピン、マレーシア、日本の6か国参加による車いすバスケットボールの交流大会を実施した。大会観戦を通じて、多くの人に障がい者への理解を深めてもらうきっかけになった。

2009 ■日本

車いす病院開設



WAFCA事務所がある「ふれあいプラザゆうきそう」で車いす修理工房として開設。修理活動を通じて、地域の皆さんとの繋がりを深めていくことを目的に現在も続けている。

2009 ■タイ

自宅バリアフリー化支援事業立上げ

障がい児の日常生活に寄り添うため、自宅に車いす用のトイレやスロープ等を設置するプロジェクトを開始。調査から工事まで地域参加型で行うことで、住民の障がい児への理解が深まるなど、当事者にも満足いただける事業として活動中。



2012 ■日本

WAFCA独自の奨学金支援開始



2003年から教育支援事業で協働していた民際センターから自立し独自に支援を開始。民際センターから学んだことを生かし、奨学生の調査、選考、学校や教育委員会との関係構築などに試行錯誤で取り組んだ。

2013 ■中国

中国雲南事業開始

北京での活動に区切りを付け、雲南省での活動を開始。障がい者が多く在籍する華夏中等专业学校（現在は雲南省特殊教育職業学校）と協定を結び、車いすと奨学金を提供するとともに、日本と中国の若者の交流をメインに活動を行っている。



2006

2007

2008

2009

2010

2011

2012

2013

2014

2006 ■タイ

2014 ■インドネシア

学校バリアフリー化支援事業立上げ

障がい児が通う一般の学校や特別支援学校に車いす用のトイレ、スロープ、手すり等を設置するプロジェクトを開始。WAFCAが初めて外務省の草の根助成金より援助を受けて実施した事業。当時タイではバリアフリートイレの認知度が低く、学校や地域の理解・協力を得るのに苦労した。のちに、「みんなにやさしい学校づくりプロジェクト」として現在までに60校以上で支援を行っている。2014年にはインドネシアでWAFCAI設立に先駆けて外務省草の根助成金により5校でトイレを建設し、その後のWAFCAIの本格的な活動に弾みをつけた。



2007-2012 ■中国

中国北京事業立ち上げ

東アジア地域での活動拡大を視野に中国北京にある「北京聚鵬科教発展中心(べきんしゅうほうかきょうはってんちゅうしん)」に対してThai Wheelと同様の車いす生産ができるように技術的な支援と一部の車いすを買い上げて中国での寄贈活動を実施。



2010 ■タイ

パキスタンへ車いす緊急支援

パキスタンで洪水被害に遭った障がい者に対し、バンコクにある「アジア太平洋障がい者センター」と協働しタイ航空の支援も得ながら、Thai Wheel工場製の車いす20台を緊急輸送。WAFCAにとって数少ない緊急支援の事例。



2014 ■インドネシア

インドネシア事務局立上げ

海外2つ目の活動拠点として、インドネシアのジャカルタに事務所を立ち上げ。現地NGOやデンソーインドネシアと協働し、WHOのガイドラインに基づく車いすサービス支援モデルを確立。設立から5年間で約700台の車いすを提供した。さらに、現地政府関係機関やNGOとプロバイダー協定を結び、より効率的で効果的な車いすサービスを行っている。

2017 ■タイ ■インドネシア

車いすダンスの普及活動を開始

脳性麻痺など重度の障がいがある子どもたちでも車いすに座ったまま楽しめる活動として、寺田恭子理事の指導のもとタイとインドネシアで活動を開始。自力では手足を動かせない子どもがお母さんと手をつなぎ、音楽に合わせて車いすごと回転するなどして一緒に楽しめると好評で、現地で少しずつ参加の輪が広がっている。



2017 ■タイ ■インドネシア

2019 ■中国

障がい児教育支援基金を立上げ

タイ教育支援事業(奨学金指定寄付)を見直し、基金化。これにより、奨学金の本来の目的が明確になり、奨学生の状況に合わせた支援になった。同時にインドネシアや中国雲南省でも支援を開始。



アジアの障がい児が置かれている環境は、一人ひとり違うということ。

— 車いすが変える、子どもたちの世界 —

アジアで車いすを必要としている子どもたちは何十万人もいると言われていま。彼らに車いすが行き渡れば、もっと生活しやすくなるだろう、学校に通って勉強できるだろう、仕事に就いて自立できるだろう、私たちはそう考えて20年前にタイで活動をスタートさせました。

現地での活動を通じて、私たちは多くの障がいのある子どもたちと出会いました。そして、障がいの程度も置かれている環境も違う彼らの現状を知れば知るほど、車いすだけでは解決できない根深い問題に直面し、本当に必要としている支援を届けることのむずかしさに日々悩みました。

車いすは1つの道具に過ぎません。でも、車いすをきっかけに何十万人の中から1人の子どもと出会い、その子に寄り添い、一緒に悩み、解決方法を考えること…それがWAFCATのあるべき姿として辿り着いた答えでした。子どもたちと一緒に学んだ20年の経験を活かし、次の10年、20年も一歩ずつ進んでいきます。



2015 2016 2017 2018 2019

2015 ■タイ

政岡基金立上げ

WAFCAT設立の立役者であり活動に多大なご尽力いただいた副理事長の政岡 勲氏が2015年1月に急性骨髄性白血病で急逝。遺志を継いだご遺族からの寄付で基金を設立。タイの車いす支援事業に充てている。



2019 ■タイ

タイで車いすサービスセンターを開設

車いすを子どもたちの身体に合わせて調整するサービスを提供するために、独自のサービスセンターを新たに立上げ。センターを起点に、遠隔地への訪問サービスも継続実施中。将来はタイで全国数か所に拠点の設置を目指す。

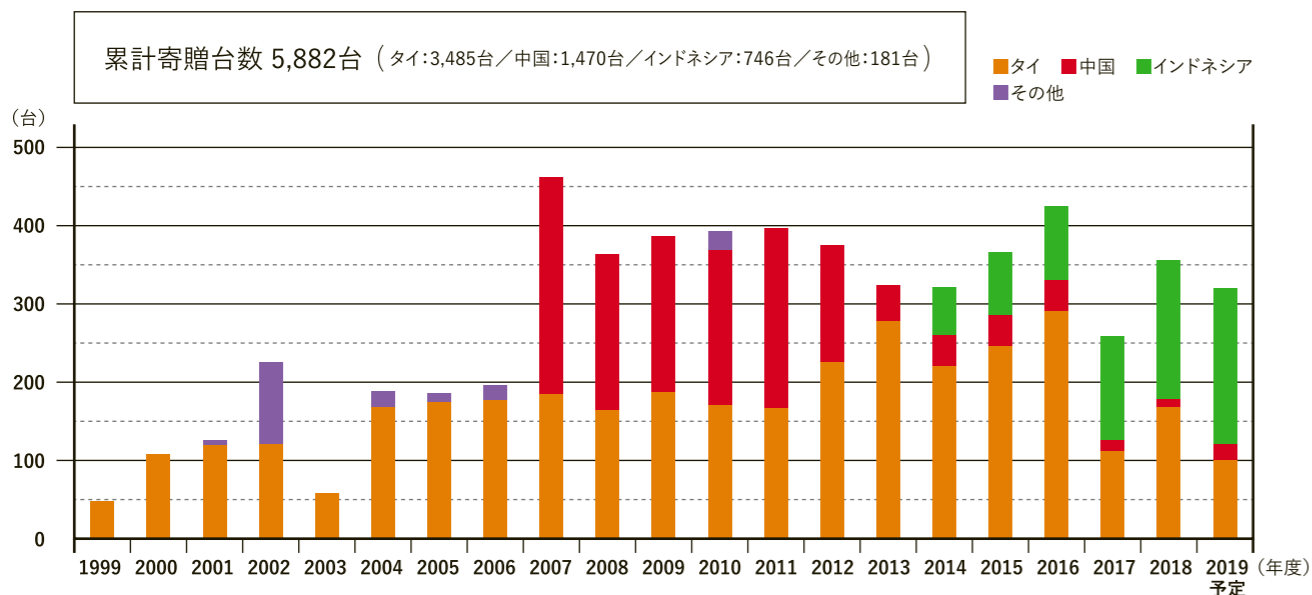


1 車いす寄贈台数と奨学金提供数の実績

2 利用者の声*

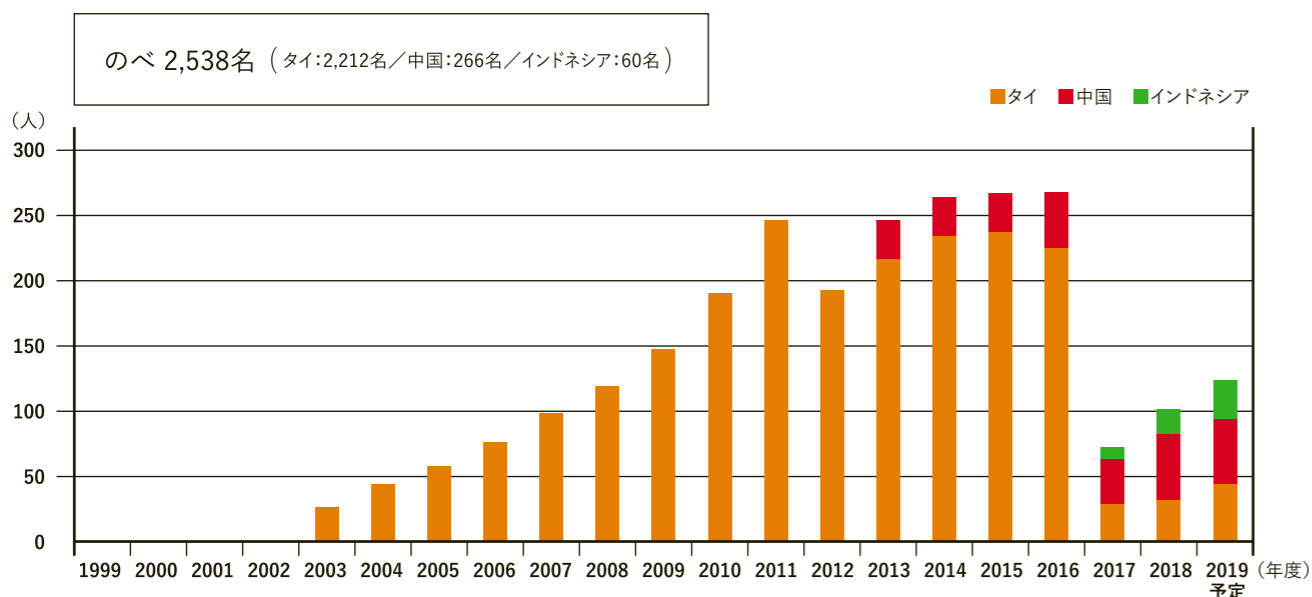
3 車いすによる変化*

■車いす寄贈台数



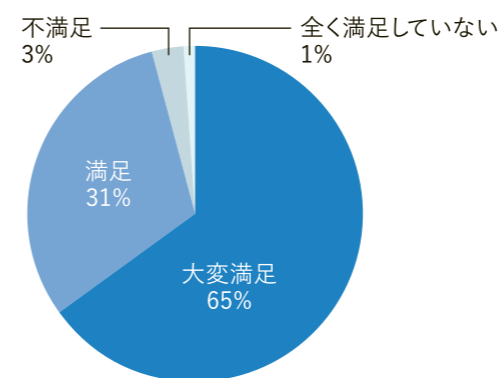
- ①車いす供与と障がい者関係団体・学校との**関係構築期**
- ②WHOガイドラインに基づく車いすサービス提供の**試行時期**
- ③WHOガイドラインに基づく車いすサービス提供の**本格活動時期**

■奨学金提供人数

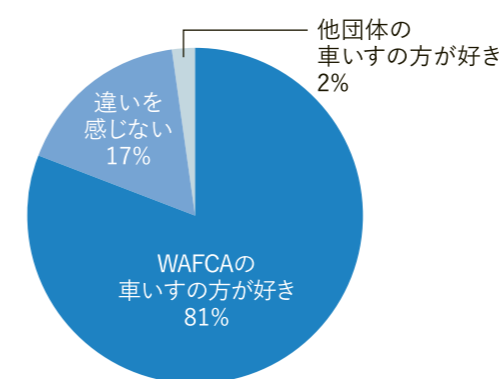


- ①公益財団法人**民際センター**と**共同で定額奨学金の提供**
- ②**WAFCA単独で定額奨学金の提供**を実施
- ③障がい児教育支援基金を設立 ⇒ 子どものニーズに応じて支援額を決める**ニーズ対応型へ移行**

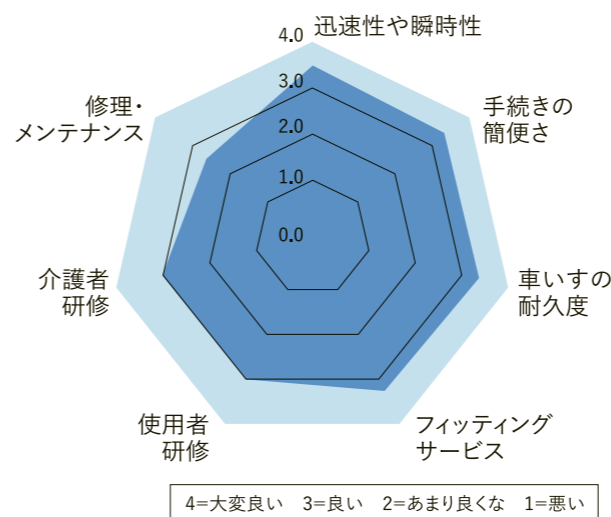
■使用者と介護者の満足度 (n=218)



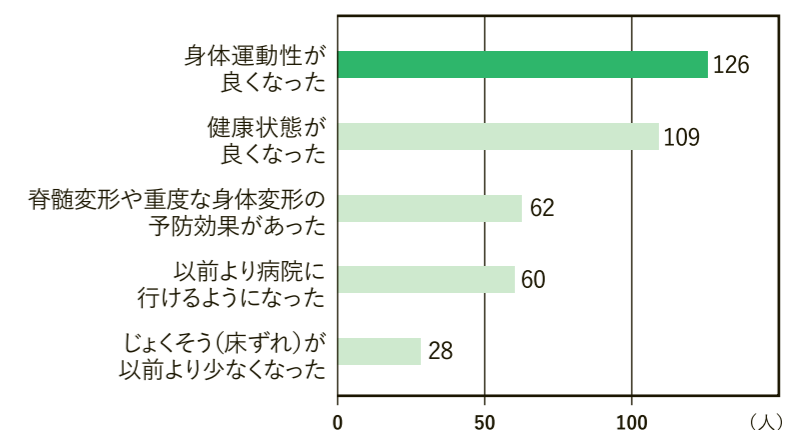
■他団体の車いすとの比較評価 (n=138)



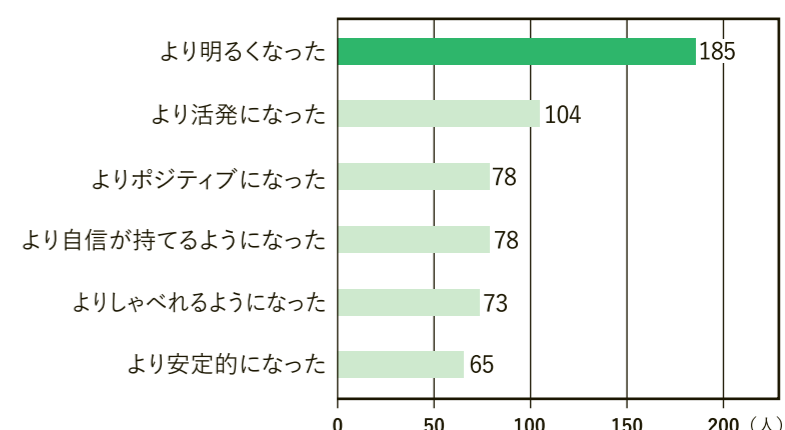
■WAFCAの車いすサービスに対する感想



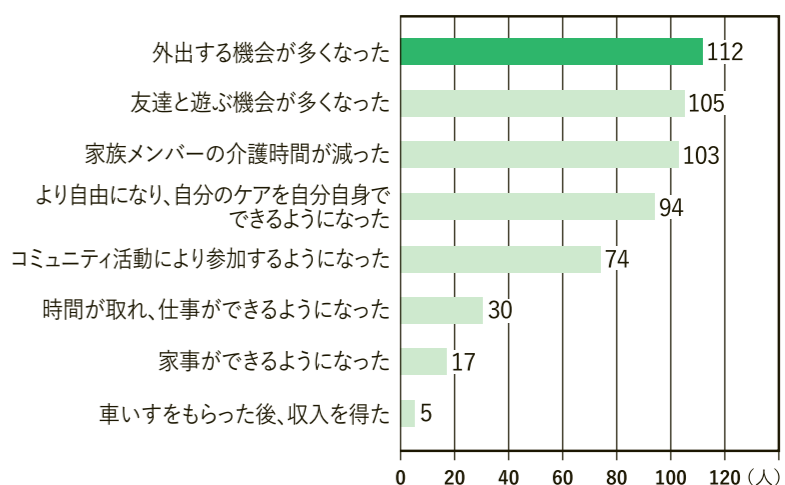
■健康状態の変化 (n=207)



■精神状態の変化 (n=238)



■日常生活の変化 (n=230)



他団体と比較してWAFCAのサービスの満足度は高く、車いすによって心身共に良い変化があらわれた。今後は車いすサービスセンターを活用して「フィッティングサービス」「修理・メンテナンス」等の改善に取り組み、更なるサービス向上を図っていく。

みんなで創りたい 10年後の未来



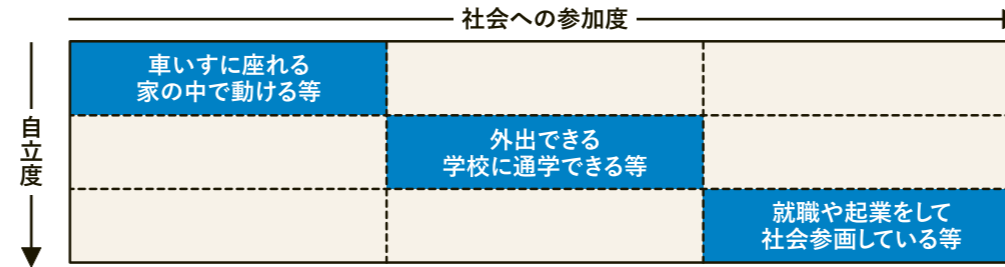
2030年の目指す姿

アジアの障がい児一人ひとりに寄り添い、
“自立へ導く実効性ある環境づくり”に取り組んでいる

1 海外での支援活動

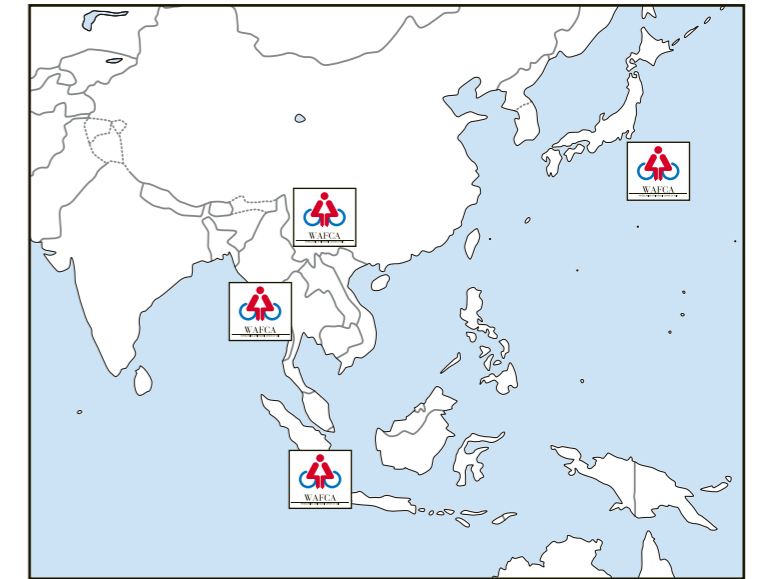
実現している行動 WAFCAの強みである総合的、継続的支援を着実に推進 **生み出している成果** 多くの障がい児が経済的自立をはじめ、一人ひとりのレベルに応じた自立を実現

- 一人ひとりの障がいや成長に応じた車いす、補助装具の提供
- 障がい児の自宅、通学校、コミュニティのバリアフリー化推進
- 障がい児、家族、教師、コミュニティへの能力向上研修の開催
- 障がい児が社会参画できるまで継続する奨学金の提供



4 活動エリア

タイ、中国、インドネシア+ ※東南アジア1ヶ国

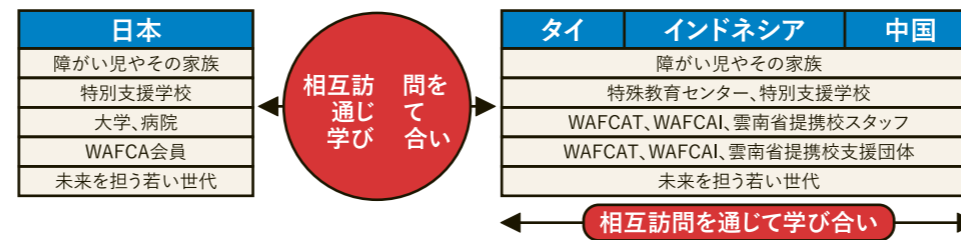


- ※東南アジア1ヶ国→以下3条件を満たす国の中から選定
- 政府やNPOによる障がい者支援が充分に行き届いていない国
 - NPO活動に対して、著しい規制や制約がない国
 - デンソーの海外拠点がある国
- (別途、現地調査の上、支援対象国を決定)

2 日本と海外の交流活動

実現している行動 日本と海外現場および海外現場間の交流を定常的かつ活発に推進

障がい児やその家族、専門家、WAFCA支援者、
未来を担う若い世代が、互いに行き来するface to faceの交流を通じて
活発な学び合いを実施



生み出している成果 学び合いを通じて、①相互理解と支援レベルが向上 ②WAFCA活動への共感が各国で拡大

3 活動財源

実現している行動 会費収入だけでなく、より幅広い資金調達の仕組みや仕掛けを構築 **生み出している成果** 国内外での支援、交流活動を円滑に行うための財源を安定的に確保

個人・団体会費、教育支援、交流推進基金、一般寄付、国別・活動別寄付、遺贈寄付、事業収入、助成金等

2030年に向けた行動指針

SDGsの8つの目標達成に貢献していく



1. 貧困をなくそう
支援の行き届かない貧しい農村部や都市スラムに住む障がい児に移動の自由と教育の機会を提供する



3. すべての人に健康と福祉を
障がい児の健康増進や情緒安定のため、一人ひとりの身体や環境に合わせた車いすと身体リハビリテーションの機会を提供する



4. 質の高い教育をみんなに
個別ニーズに対応した奨学金提供、就学や進学に関する個別相談や研修を通じて障がい児に質の高い教育機会を提供する



6. 安全な水とトイレを世界中に
すべての子どもたちが清潔で安全なトイレにアクセスできるよう、障がい児が通う学校にバリアフリートイレを設置する



8. 働きがいも経済成長も
勉強意欲の高い障がい児に対して、将来、就職、起業機会を獲得できるまで奨学金をはじめとする継続支援を提供する



10. 人や国の不平等をなくそう
国連障がい者権利条約に基づき、障がい者の人権を守ることを基本とし、一人ひとりのニーズに寄り添った支援を提供する



11. 住み続けられるまちづくりを
障がい児自宅にバリアフリートイレ、スロープ通路など、車いすが使える環境を整え、安心、安全に暮らせる街づくりを行う



17. パートナーシップで目標を達成しよう
政府、教育機関、DNグループをはじめとする企業等の理解、協力によりWAFCA単独では行き届かない地域へ多くの支援を届ける

素晴らしい家族と、



WAFCAに出会えた幸運に感謝しています。

ウィナダ・ジャレーンシリ



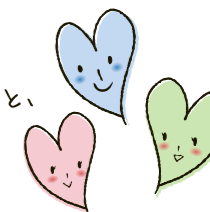
私はWAFCAの設立と同じ1999年に、タイ東北地方プリラム県の貧しい農家に6人姉兄の末っ子として生まれました。生まれつき両脚と右腕がありません。左手も肘が曲がらず、親指以外の指がくっついていています。幼い頃からお父さんはいなくて、お母さんと歳の離れた姉と3人の兄が私を育ててくれました。小学生になって、自分の身体が周りのクラスメートや先生と違うことや、自分ひとりではできないことがたくさんあることを知って、落ち込むこともありました。どうして私はみんなと違うのだろうか、どうしてこんな身体で生まれてきたのだろうか？と悩み、みじめに思うこともありました。お母さんに辛い気持ちをぶつけたこともありました。それでもお母さんや姉兄はいつも私を励ましてくれました。特にお母さんは、私が辛いことがあっても学校へ休まず通えるよう毎日バイクで送り迎えしました。一生懸命努力し、どんなことがあっても挑戦することの大切さを教えてくれました。

2011年、私が小学5年生の頃、WAFCAから初めて車いすをもらいました。また、この年から毎年奨学金をもらい、地元の中学校を卒業することができました。その間、毎年のようにWAFCAが主催するセミナーやキャンプに参加し、他の地域に住む友だち（奨学生）と交流を深め、意見交換しながら進学や将来の就職に向けた知識や経験を増やしていきました。2013年、中学2年生だった私は、WAFCAの招待で初めて日本を訪問する機会をもらいました。その時は同じ学年の日本人の中学生と交流したり、障がい者が生き生きと働いている企業を見学したり、日本の公共交通機関を利用してバリアフリーの良さを体験するなど、とてもたくさん刺激を受けました。何より、奨学金を支援してくださっているドナーの方と直接対面し、お礼の言葉を伝えて私が描いた絵を手渡すことができたことが嬉しかったです。

中学卒業後は、大好きなお母さんの元を離れ、チョンブリー県パタヤにあるレデンプトリスト障がい者職業学校へ進学しました。ここでの寮生活では、ほぼすべて一人で身の回りのことをやらなければなりません。もちろん不安はありましたが、中学生の頃、WAFCAのキャンプでこの学校を訪れたことがあったので、思い切って新しい世界に飛び込むことができましたし、何よりもお母さんや家族がこの挑戦を後押ししてくれたことで勇気を持つことができました。

私は今年の11月で20歳になります。現在は、レデンプトリスト障がい者高等専門学校（日本の短大に相当）の2年生です。とくにコンピュータや英語の勉強を重点的に頑張っています。英語を話すのはまだ苦手ですが単語のスペルを1つ1つ覚えていくことがとても好きで、校内のコンテストに向けて日々勉強に励んでいます。また、幼い頃から絵を描くことが得意で、プリラム県や東北地方のコンテストに何度も参加し、入賞しました。絵を描くことは今も続けています。まだ将来何をやりたいかははっきりと決めていませんが、大学進学も視野に入れています。そして、いつも励まし支えてくれるお母さん、お姉さん、お兄さんたちに思返すために、一人前に仕事について家計を支えていきたいと思っています。

不満足な体で生まれてきたことは不平等だったかもしれませんが、素晴らしい家族がいることと、WAFCAに出会えた幸運に感謝しています。



新しいことに挑戦すると、
僕の大切な人たちが喜んでくれる
それは僕にとって一番嬉しいこと



インドネシア

アルファ・リツキ

僕の名前はアルファのジャカルタのとなりにあるプカシ県に住んでいます。僕は、家から歩いて10分くらいの小学校へ通っています。学校へは毎日WAFCIAからもらった車いすで行っています。お父さんはタクシー運転手でお母さんは僕と弟と妹の3人を育てています。一番下の妹はまだ小さいので、お母さんは妹から離れられません。これまで僕は、お母さんのバイクに乗せてもらって学校へ行っていました。弟の送り迎えもあるし、妹の世話もあるし、お母さんはとっても忙しくなっていました。お父さんの車に乗せてもらうこともありますが、お客さんに乗せて隣の町まで行くことも多いので、毎日は難しいです。

だから僕は近所にいる友達に協力を得ながら自分で学校に行くことにチャレンジしています。車やバイクがたくさん通る道もあるので、お母さんは毎日心配しています。それでも僕は少しでもお母さんを助けることができた気がして嬉しいです。車いすを使って学校に行くようになってから、前よりも勇気が湧いてきて人と話すことが苦手ではなくなってきたし、色々なチャンスが舞い込んでくるようになりました。

2018年の10月には、ジャカルタで開催されたアジアパラゲームを観戦し、日本の選手と交流するプログラムに参加しました。知らない子たちがいろいろな学校か



ら来ていて最初はとても緊張しましたが、一緒に車いすスポーツの体験をしたらすぐに仲良くなれました。僕はそのときに選手やみんなと一緒にやったポッチャが大好きになりました。この様に車いすと共に僕の世界は広がっていきました。

2019年1月にはWAFCIAの5周年記念式典で車いすクライアントと奨学生を代表して、お礼のスピーチをすることになりました。

僕は大勢の前で話すのは苦手で、とても緊張しましたが、精一杯、大きな声で心の声を伝えました。「この車いすがあればどんなところへだって行けるし、どんなことだってできます！だからこれからも新しいことにチャレンジし、苦手なことがんばっていきます！」会場の人たちがみんな笑顔でたくさん拍手をしてくれました。お父さんもお母さんとても喜んでくれました。WAFCIAのお兄さんも終わった後にハイタッチをしてくれました！僕が新しいことに挑戦すると、僕の大切な人たちが喜んでくれる。それは僕にとって一番嬉しいことだと気がきました。

僕の夢は、コンピュータに関わる仕事に就くことです。その夢に向かってこれからも頑張ります！

自分は決して他人よりも
劣っているわけではない。
努力次第で運命はかえられる。



中国

通想然(トン・シャン・ヤン)

私は中国とミャンマーの国境に近い雲南省徳宏州のジンポー族(ミャンマーのカチン族)出身で、お父さん、お母さん、お兄さんと私の4人家族です。私は先天性の骨形成不全症で、2歳年上の兄も同じ障がいがあります。

私は村の小学校を卒業し、中学は寄宿学校に通いました。先生は車いすの私のために、寮も教室も移動しやすい階にしてくれました。クラスメートと勉強に励み、第一志望だった雲南特殊教育学院の高等部に入学することができました。兄も同じ高校を卒業し、現在は江蘇省で働いています。私も将来働くために、この学院の短大(3年間のカリキュラム)への進学を目指しています。

今年3月、WAFCIAから電動車いすと奨学金をもらいました。それ以来、毎日この車いすを使っています。まるで私の足のように、車いすの乗り降りも身の回りのことも自分自身でできるので、足を手に入れた私は今とても自由な気持ちでいっぱいです。奨学金は教科書代の一部として使いました。両親の仕送りの負担を減らすこ

ともできて、とても誇らしく思います。自分の障がいを悲しいと思うことは時々ありますし、手足に不自由がない人を見てうらやましいと思うこともあります。でも、自分の努力で成績が良かったとき、自分は決して他人よりも劣っているわけではないと自信を持つことができました。

このように努力する原動力となっているのは両親の存在です。両親は果物農家で、決して裕福ではありません。障がい者である兄と私の二人を育てるのに本当に苦労しました。そんな両親に将来恩返しするためにも今は自分ができる限りの努力をして、早く仕事に就いて自立したいです。

WAFCIAの皆さん、私を支えてくださってありがとうございました。いつか皆さんのいる日本に行くことができれば一緒に富士山と桜を見てみたいです。





Message

(株)デンソー 元社長

石丸 典生

WAFCA設立20周年おめでとうございます！
「保護より機会を」を理念として、心身障がい者の自立支援に命をかけた「太陽の家」の設立者故中村裕博士に心を打たれた私は、微力ながらも「ノーマライゼーション」実現の一翼を担うWAFCAを設立以來応援できたことを嬉しく思います。

最近、諸主要先進国の世界全体ではなく、自国ファーストの広がり懸念しています。私の信奉する「共生」とは、強きも弱きも人は皆等しく、共に幸せに生きる社会です。

障がいの有無・人種・宗教などの区別なく、WAFCAは一人ひとりに寄り添って、分け隔てなく等しく幸せに生活できるように、地道な活動を続けられるよう祈っております。私も「共生社会」実現のためWAFCAの支援を続けます。



Message

あいおいニッセイ同和損保(株)
常務執行役員

金子 羊一

WAFCA設立20周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

1999年の設立以降、障がい児の自立支援に力を注がれ、タイそして中国・インドネシアと拡大され、車いすの寄贈と奨学金支援を続けてこられました。その活動は国や地域を越えた支援であり、まさに真の国際貢献であります。この20周年を機に、今後も更に障がい者の交流の場を増やし、多くの皆さんに喜んでもらえる支援を続けることで、相互理解がより深まり、そして「心のバリアフリー」の実現につながるよう、心より期待しております。

今後の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



Message

WAFCA会員

原 一将

WAFCA設立20周年おめでとうございます！

僕は2019年2月よりWAFCAの会員となりました。20年の歴史から見れば、まだまだ日は浅いですが、それでも今日まで大変多くの事を学ぶことが出来ました。

例えば、中国フレンドシップツアーに参加した際には、人前で話すのが苦手だったシャイな子が、車いすを受け取った事で笑顔になり、プログラムの最後には日本語で「ありがとう」と挨拶してくれたのが印象的でした。障がいを持った子どもたちの成長を直に感じる事が出来ました。この様な経験が出来るのは、WAFCAの魅力の1つであると考えています。WAFCAの活動が、より多くの人にシェアされ共感を得られる事を目指して、WAFCAに関わる全員で、未来の10年を創っていきましょう！



Message

WAFCAT元インターン

瀬口 聖佳

WAFCA設立20周年、おめでとうございます！

私は大学生の時に、WAFCATで車いす寄贈のボランティアや、2か月間のインターンシップを経験させていただきました。インターン中に現地の学校と密に連絡を取り、「押し付けの支援」ではなく、「本当に必要な支援」を考えながら実行していました。関わった子ども達は、これからしたいことや夢、学校に通える喜びを語ってくれました。その時のキラキラした瞳は今でも忘れることができません。私は今、学校現場で教員として働いています。あの、タイの子どもたちの瞳を胸に、学校の経験から気づいた子どもたちにとっての学校の意味を考えながら、日々教鞭をとっています。これからもWAFCAで学んだことを生かして、子どもたちの笑顔のために頑張っていきます。そして、また機会があればWAFCAの活動に今後も参加していきたいです！これからもずっと応援しています！



Message

WAFCAT理事長

スポンタム・モンコンサワ

「私たちは互いに助け合うことで共に幸せに生きることが出来る。」これはある支援者の言葉です。タイ初代理事長の故ナロン・パティバスキット先生、前副理事長の故政岡勲氏と共に、20年間障がい者のために考え行動してきた私も同じように感じています。お二人の導きで、私たちは障がい者の権利や福祉に関する知識を啓発し、障がい児に対して車いすや教育の機会を提供することで、彼らが社会参加しやすい環境を整えてきました。勿論これらは日本からの支援無くしては成し遂げられなかったことです。全てのタイ国民を代表し、会員、職員、ボランティアの皆様には心よりお礼申し上げますと共に皆様の幸福とご発展をお祈りします。これからも障がい児が教育を受け、仕事に就き、人間の尊厳をもって自立していける環境や機会が提供できるよう共に頑張っていきたいと思います！



Message

WAFCA会員

岡田ちあき

以前タイの東北地方に行ったとき両手両足が不自由な少女と出会いました。両足とも膝から下が無くても不自由さを感じさせない明るい笑顔！両手が不自由でもノートに書かれたタイ文字は綺麗で絵も上手！将来は学校の先生になるという明確な目標を持ち、もっともっと勉強したいという前向きな姿勢！そんな少女の明るい笑顔と輝いた眼差しを見て何不自由なく当たり前のように生活しているだけの自分が恥ずかしくなります。この子の為に何かできることはないのか？もっと他にも頑張っている子どもたちを応援することはできないのか？そんな想いを胸にこれまでWAFCAの活動に賛同して共に歩んできました。これからも地域に根付いた持続的な活動を応援していきます。



Message

WAFCAIスタッフ

アグス・スラトノ

私はWAFCAIのスタッフの一人です。WAFCAIの設立から5年間ずっと車いすサービスプロバイダーとして働いています。誰かの力を必要としている人たちに対して、車いすや教育を通してサポートをする仕事ができ私はとても幸せです。これからもWAFCAIを通して、障がいのある子どもたちがきちんと教育や保健、就労に関する支援を受けられ、そして一人ひとりが力を発揮して夢を実現し、自立の道に向かって進んでいけるよう頑張っていきます。

WAFCAの皆さん、アジアの国々の中で沢山のサポートをしてくれてありがとうございます！WAFCAの活動がこれからさらに広がっていくことを期待しています。そして支援を必要としている人たちの未来がより良いものになっていくことを望んでいます。



Message

中国事業 現地コーディネーター

張 傑

2013年以来、私は雲南省でWAFCAの車いすと奨学金の寄付活動に関わっています。私とWAFCAのメンバーは、雲南の地を走り回り、愛の種を広めてきました。車いすや奨学金をもらった可愛い子供たち。彼らの笑顔を見ると、この活動をやって本当に良かったと思います。私は毎年華夏中等专业学校に通い、新しく入学した子供たち、補助金を受けて学校に通う子供たち、そして卒業していく子供たちと出会っています。子供たちをしっかりと成長させていく事こそ、WAFCAの支援に対する最大の恩返しであると思っています。WAFCAの皆さんが雲南にきて日本文化の紹介して下さることも、子供たちが新しい別の世界の窓を開け、可能性を広げる事へとつながっています。WAFCAの愛ある支援に感謝。

編集メンバー

編集委員：佐藤 久美
《WAFCA理事》

内藤 壽久

小田 秀一

原 一将

WAFCA事務局：熊澤友紀子

関谷 司

福原 春菜

織田 優佳

車いすが変える、子どもたちの世界。車輪

WAFCA's Sharing Magazine

表紙デザイン／高倉京子 ページレイアウト／株式会社クイックス

発行人 榎田 勝利

発行者 認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター(WAFCA)
〒448-0834 愛知県刈谷市司町1-2 ふれあいプラザゆうきそう内
0566-23-5822

<http://wafca.jp/>



WAFCA



印刷日 2019年11月11日

発行日 2019年11月16日

印刷所 株式会社 クイックス
〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20

— 車輪に込めた想い —

車いすにも使われる車輪。

その車輪が力強く前進し、目標に向かって飛躍する。

これまでの活動を通じて蒔いてきた種が芽を出し、つぼみとなり、

やがて大きな車輪の花を咲かせる。

そんな願いを込めて、車輪と名付けました。

また、車輪をwheelと英訳せず、ローマ字のsharinを sharingと記し、

目標を様々な支え合う仲間たちと共有(sharing)する、

喜びや痛みを分かち合う、パートナーシップで繋がる、

という願いも込めました。

車いすが変える、子どもたちの世界。

車輪

WAFCA's Sharing Magazine



